

「新たな活動検討委員会」活動報告

2018年度の「新たな活動検討委員会」では、前年度からのワーキンググループ(WG)の活動を継続するとともに、全体委員会において学会の今後の活動のあるべき姿についての議論を3回にわたり行いました。その結果、学会が対象とすべき各種イシューの範囲が広まっているため、組織としてガバナンスを強化して統合的アプローチが必要となってきたと認識し、合同理事会の位置づけにて新たに会長の下に各常任理事会の筆頭理事を中心としたメンバーで構成する企画会議を組織し、その中に会長直轄を外した形の「新たな活動検討委員会」を位置づけて複数年度にわたり継続的に学会の新たな活動を検討する体制に移行する方針とし、その活動を開始することとしました。

なお、2018年度の各WG活動は以下の通り行われました。

(1) 場のイノベーションWG

(メンバー：大津留榮作佐久、菊池純一、小林直人、山口泰久(リーダー))

本WGは、これまでの議論を取りまとめ、下記書籍の刊行を行った。

「場のイノベーション～異なるコト・モノの協創のための理論と実践」

発行：2018年9月30日、編者：菊池純一・小林直人、発行所：(株)中央経済社

第1章 実践的協創スキームの戦略デザイン 菊池純一

第2章 企業における「場」の変容 西尾好司

第3章 国立研究開発法人の現場における実践から 安永裕幸

第4章 理研の産業連携とバトンゾーン機能 藤田明博

第5章 地域展開における場のプロデュース 大津留榮佐久

第6章 イノベーションを促進する「場」とガバナンスの変容 山口泰久

第7章 場のイノベーションとアントレプレナーシップ 島岡未来子・小林直人

第8章 PDCA サイクルにおける軌道修正の場 竹上嗣朗

第9章 連携を意識した知財管理の場 今智司

第10章 場のイノベーションを誘発する人材 吉田朋央

第11章 安全システムによるイノベーションと場の形成 和泉章

第12章 人工知能の戦略志向と分野融合の場 関根久

(2) イノベーション・マネジメント検討WG

(メンバー：安部忠彦、井川康夫、井上敬介、小沼良直（リーダー）、坂巻克己）

昨年度からスタートした周辺環境・将来問題検討WGを改名し、検討範囲をイノベーション・マネジメント全般に広げた。今年度の主な検討内容は以下の通り。

○分野別の学会の活動状況の整理と今後の活動の方向性の検討

分野別の活動状況と今後の活動の方向性について、下表の様に整理した。

取組のスタンス	具体的なテーマ	目指すべきこと
基礎情報として傾向を把握・分析すべきもの *現状はほとんど学会では議論されていない	・企業の研究開発投資の傾向の変化と課題	○データをベースとした議論・分析 ・研究開発投資と事業創出などの成果の関係 ・ビジョン、戦略、将来予測等の現状と課題 ・オープン・クローズ戦略の現状と課題 ・日本企業の競争力の現状と課題 ・グローバル展開の現状と課題 など ○継続的に調査を行える体制の構築（予算獲得）及び学会全体のレベルアップ
	・収益性・競争力確保に向けての事業構造の再構築（モジュール化とすり合わせ、標準化戦略、強み・弱みなど）	
	・グローバル化対応（特に新興国市場への進出）	
事例中心に今後も情報収集を行うべきもの *現状は分科会等で事例中心に多く取り上げられている	・ビジョン、経営戦略、事業戦略、研究開発戦略の構築	○最新の取組事例の入手と情報発信 ・最新の事例は非常に重要であり、情報発信を強化する
	・イノベーション創出に向けてのマネジメント、企業風土構築	
	・ブレイクスルーの要因分析	
	・第4次産業革命、IT関連技術の急速な進展などの動き	
事例中心に情報量を増やすべきもの *現状は分科会等で取り上げられていてもごく一部)	・オープンイノベーションの取組事例（産学連携を含む）	○最新の取組事例の入手と情報発信 ・最新の事例は非常に重要 ・分科会では、さほど取り上げられていないため、意図的な活動が必要か？
	・起業における課題、推進策	
	・市場分析、マーケティング戦略	○最新の取組事例の入手と情報発信 ・最新の事例は非常に重要 ・分科会では、さほど取り上げられていないため、意図的な活動が必要か？
	・中小企業（GNT企業を含む）における課題、推進策	
	・地域イノベーションにおける課題、推進策	
	・製造業以外のイノベーション（サービス業、農林水産業等）	
・その他の周辺環境・将来課題		

(3) イノベーション人材問題検討WG

(メンバー：犬塚隆志、小粥幹夫、小沼良直（リーダー）、谷口邦彦、藤原綾乃)

1) 検討すべきテーマの整理

今後検討すべきテーマを抽出し、下表に整理した。

テーマ	議論すべき内容
①イノベーション創出に向けた人材の育成	・個々の能力要素の育成方法 －創造性、戦略立案能力、グローバル化対応力、幅広い専門性、人間としての基礎力等
②Society5.0等、新たな変革に対応できる人材の確保・育成	・産業界のニーズと教育のマッチング、専門教育の充実 ・新たに必要とされる専門性への対応（AI等）
③キャリアパス・人材の流動性	・多様な人材の確保・活用、キャリアパスの多様化 ・人材の流動化の推進 ・生涯教育
④博士人材の育成・キャリア	・博士人材の育成とキャリアパス
⑤科学技術への興味関心の醸成・人材確保	・少子化、工学部学生の減少への対応 ・科学技術への興味関心の醸成、キャリア教育
⑥地域振興に向けた人材の育成（確保も含む）	・地域振興に必要な人材 ・オープンイノベーションを推進・支援できる人材の育成（ファシリテーター、コーディネーターなど） *オープンイノベーション単独も考えられる
⑦人材の活性化	・モチベーション向上策、企業風土構築など人材活性化策

2) 人材ワークショップの開催

文部科学技術・学術政策研究所との共催により、以下のワークショップを開催した。（上記のテーマの①に相当する活動）

日付	テーマ・登壇者
2018年 9月27日	○テーマ 徹底討論WS イノベーション創出に貢献できる人材育成「先進的な取組事例と課題」 ○パネリスト 梶原ゆみ子 富士通株式会社 常務理事 島田啓一郎 ソニー株式会社 執行役員 藤田喜久雄 大阪大学 工学研究科 教授 朝日 透 早稲田大学 理工学術院 教授 角田 英之 文部科学省科学技術・学術政策研究所総務研究官 ○モデレータ 小沼 良直 公益財団法人未来工学研究所 主席研究員 犬塚 隆志 文部科学省科学技術・学術政策研究所 客員研究官 ○司会 藤原 綾乃 文部科学省科学技術・学術政策研究所主任研究官

(4) 政策との関わり検討WG

(メンバー：小沼良直、富澤宏之 [代表]、林隆之、元橋一之)

我が国における科学技術イノベーション政策研究の中核的な学会として、政策形成／立案に貢献し、あるいは影響を及ぼすべき、という、これまでの本WGの議論に基づき、今後の活動の方向性を検討した。

これに関連して、今後、政府部内での検討が開始することが想定される第6期科学技術基本計画（2021年度～2025年度）の策定に向けて、本学会が積極的に提言していくための取り組みについて、本WGの内外から提案があり、本WGを発展させ、「エビデンスベースの科学技術基本計画策定のあり方WG（仮称）」を設置し、活動の主体とするとの案をとりまとめた。また、第6期科学技術基本計画の策定に向けて、本学会が提言していくための取り組みについての具体的な提案を取りまとめた。

これらの提案については、赤池伸一（編集理事）、林隆之、富澤宏之が発起人となり、2018年度学術大会においてランチセッション（2018年10月28日）を開催して、提案内容を紹介して議論し、会員の意見等を取り入れる予定である。

(5) 国際化検討WG

本WGについては、本年度は活動を休止とし、来年度に新たなリーダー、メンバー構成を進めることにした。

以上